

# 荒川流域エコネット地域づくり推進協議会

## 第 1 回 荒川流域エリア・ワーキング

### 議 事 要 旨

■ 日 時：令和 2 年 11 月 12 日（木） 10：00～12：00

---

■ 場 所：鴻巣市文化センター「クレアこうのす」大会議室 A・B

---

#### ■ 議事要旨

---

##### 1. WG の設立について

###### (1) 規約・委員名簿の確認【資料 1】

- ・出席者の確認、紹介及び規約の確認を行った

###### (2) 座長の選任

- ・委員の互選により、埼玉大学 名誉教授 浅枝 隆氏が座長に選任された。

##### 2. 「荒川流域エコネット地域づくりアクションプラン（仮）」の作成について

###### (1) 作成の目的、および構成（素案）【資料 2】

- ・事務局より、アクションプラン(仮)素案がたたき台として示された。

###### (2) アクションプラン作成に関する意見交換

- ・取り組みの指標種、地域づくりのシンボル種などについて意見交換が行われた。

###### (3) その他

- ・今後のスケジュールについての調整・連絡がされた。

#### ■ 配布資料

---

- ・議事次第／出席者名簿／配席図／協議会規約・名簿
- ・資料 1：荒川流域エリア・ワーキング規約・名簿
- ・資料 2：荒川流域エコネット地域づくりアクションプラン（仮）素案
- ・参考資料 1：関東地域におけるコウノトリ・トキを指標とした生態系ネットワーク形成基本計画（H28.3）
- ・参考資料 2：他エリア アクションプラン(利根運河周辺エリア、渡良瀬遊水地エリア)

■ 出席者

構成	氏名	団体名等
学識経験者	浅枝 隆	埼玉大学 名誉教授
	高木 嘉彦	(公財) 埼玉県公園緑地協会 埼玉県こども動物自然公園 副園長
	日橋 一昭	(公財) 東京動物園協会 総務部 教育普及センター所長 ※WEBによる参加
市民団体	川島 秀男	特定非営利活動法人 荒川流域ネットワーク 理事
	伊藤 鑄義	特定非営利活動法人 鴻巣こうのとりを育む会 代表理事
関係自治体	大島 和之	鴻巣市 環境経済部 環境課長
	天沼 貞良	桶川市 市民生活部 環境課課長
	浦 直樹	北本市 市民経済部 環境課長
	青木 健	川島町 農政産業課長
	笛木 学	吉見町 農政環境課 係長
関係行政機関	窪田 美佳	埼玉県 環境部 みどり自然課 主幹
	宮島 陽一	埼玉県 農林部 農村整備課 技師
	齋藤 雄太郎	埼玉県 県土整備部 水辺再生課 主事
	米沢 拓繁	荒川上流河川事務所 副所長
事務局	鬼頭 岳彦	荒川上流河川事務所 河川環境課長
	逢沢 英之	荒川上流河川事務所 河川環境課 専門官
	新保 美奈子	荒川上流河川事務所 河川環境課 河川環境係長

## ■ 議事内容

### 1. WGの設立について

#### (1) 規約・委員名簿の確認

##### －【資料1：荒川流域エリア・ワーキング規約・名簿】の確認

(荒川上流河川事務所 新保河川環境係長)

→意見なし。

#### (2) 座長の選任

－規約に基づき、埼玉大学 名誉教授 浅枝 隆氏を座長に選出。

→全会一致で合意。

→選任。

### 2. 「荒川流域エコネット地域づくりアクションプラン(仮)」の作成について

#### (1) 作成の目的、および構成(素案)

【資料2】アクションプラン(仮)素案の説明を実施。

#### (2) アクションプラン作成に関する意見交換

##### ○ 浅枝座長

コウノトリをはじめとする様々な自然を呼び戻すということは、今、世界的に求められている。生態系ネットワークの取り組みは、様々なメリットがある。積極的なご意見、忌憚のないご意見をいただきたい。

##### ○ 荒川流域ネットワーク

鴻巣市の小谷の田んぼで埼玉県の方にお越しいただいて、ドジョウの養殖実験している。目標としてはコウノトリの餌から鴻巣市の観光事業として、例えばドジョウの唐揚げだとか道の駅などが出来た時にそういう所でおみやげに。コウノトリを見ていただくと同時に人間のお土産にもということで、今進めている。ドジョウの習性なども勉強しながら、鴻巣市でコウノトリを野生に放鳥したときに、放鳥されたコウノトリが安心して、ドジョウなどを食べられるようになれば良い。また、ドジョウを増やすとそこにカエルだとか、他の魚もたくさんいるようになるということになると思う。

そういうことを、このアクションプランの中に入れていきたい。

##### ○ 吉見町

吉見町はイチゴの生産が盛んで、荒川の氾濫により肥沃など土壌があったということに由来し、「吉見イチゴ」というブランド化を図る取り組みを進めており、地域に根差した特産品として取り上げていただければと思っている。

また、武蔵野の面影を残す里山である岩室観音堂にイワタバコが群生しており、め

ずらしいものとして紹介する。また、さくら堤公園は、昔、荒川が氾濫する被害を防ぐため、集落を囲むように桜を植えた土手があり、観光名所になっている。

外来種駆除について、オオキンケイギクを取り上げてもらっているが、問題になっているという点ではアライグマの方が適しているかと思う。また、スクミリンゴガイの駆除にも地域連携で取り組んでいるところである。

市野川クリーンアップ作戦を取り上げていただいている点は、荒川クリーンアップ作戦も実施しており、そちらのほうがいいのかもしれない。

町西部ではソーラーパネルの建設が相次いでおり、貴重な自然が失われてしまうのではと危惧している。

サイクリングの取り組みが挙げられているが、荒川サイクリングロードでは、北本市さんと「桜でつながるスタンプラリー」という企画を連携して実施しており、紹介させていただく。

#### ○ 高木委員

コウノトリについては、野田市が放鳥等を実施して、今回、渡良瀬遊水地でもうまくいったということから、その輪は広げていかなければいけない。荒川流域も関東全域の重要な地点として考えていった方がいい。

#### ○ 浅枝座長

関東エリア共通の指標種という位置づけで、コウノトリ・トキが挙げられる。

#### ○ 埼玉県水辺再生課

指標種の考え方として、外来種（オオキンケイギクやアレチウリなどの繁殖力の強い植物等）も、ターゲットにすべき動植物としてリストアップしていただくと周りの方に説明するときに役に立つのかなと思う。

#### ○ 事務局

わかりやすい指標ということに対して、外来種が目標としてネガティブに映るところがある。引き続き討論はさせていただきたい。

#### ○ 鴻巣こうのとりを育む会

将来像としては、荒川流域の空、あるいは埼玉県の空にコウノトリを羽ばたかせようというのが僕は一番の目標だ。これは色々な産業が含まれ、夢のある産業になるのではないか。生態系のピラミッドを正常な形にしていく、あるいは農業のやり方とか観光とか、そういうやり方などの1つ1つを考えてみて、羽ばたかせるための産業を推進していければ良い。

#### ○ 高木委員

安定した環境でしか生きていけないものもあれば、逆に河川環境のような時折、攪

乱することによって生きていける生きものもいる。

環境自体、乱れるような環境を守る部分と、ちょっと安定した環境を守らなければならないという所、そここの意識付け、全て守ればいいんだという形だと逆に守れなくなってしまう生き物も多くなってしまう。

#### ○ 浅枝座長

荒川流域は、昭和 20 年代はどこも礫河原だった。荒川は洪水の度にどんどん変わっていた。そういう荒川の氾濫原に生きていた種ってというのは今、非常に生きづらくなっている。

#### ○ 川島町

令和元年の台風 19 号や前々年度の台風で、おそらく上流から増水して流れて、三ツ又周辺にシカが住み着いているというような状況も見られる。吉見町でアライグマ等が増えている状況もある。農作物への被害が増えてくる。

#### ○ 事務局

色々な生き物が増えているという観点では、いい面もありつつ一方で、荒川の河川敷は農業の従事者の方もいらっしゃる。そういった方にとっては、非常に苦しい状況だという風に聞いている。

#### ○ 浅枝座長

最近では生態系サービスと呼ばれてはいるが、自然の持つ様々な効果を、各自治体の施策にうまくからめていくと、住民の方に説明しやすくなるのではないかと。様々なメリットが出てくるのではないかと思う。

#### ○ 埼玉県環境部みどり自然課

生物多様性の保全というキーワードが非常に需要で、生態系サービスというところに直結する話である。いろんな生物を保全しなくてはいけないが、いっぱいいいればいいということではなくて、やっぱりバランスというのが非常に大事である。

#### ○ 北本市

北本市では、自然を生かした施設などが集中しており、北本市の大きな特徴となっている。自然や歴史などが高く評価され、都心から 50 分、埼玉県の中央部に位置しているながら、自然が多く残っている。

現在、「& g r e e n」（アンドグリーン）というテーマでシティプロモーション事業に着手している。

その中で緑豊かな里山が癒しの効果があるということに北本市長が着目致し、森林セラピー事業というのに最近着手している。里山や雑木林のもつ癒し効果に期待しており、健康増進を市の P R としている。北本市がもつ里山の雑木林の癒し効果は、平

成 30 年度に実証実験し科学的に認められている。

こういった森林の持つ癒しをアクションプランの一つに加えていただきたい。また自然の持つ癒しの効果や機能をアクションプランにしてはどうか。

#### ○ 鴻巣市

プラン①については、情報交換や支援をしながら進めていきたいと思っている。

プラン③については、鴻巣市の飼育施設及び野鳥観察の拠点となる施設を整備しており、3月には完成する予定である。

本市の環境学習だけではなく、流域の環境学習にもつながる拠点となるということでこちら拠点施設も推進していきたい。

荒川の河川敷にサイクリングロードがある。コウノトリの野生復帰の拠点になる所が、サイクリングロードを利用している方の休憩場所などとして利用していただきたい。

#### ○ 事務局

荒川の中では、三ツ又沼、越辺川、荒川ビオトープを整備している。また、鴻巣市のところに大間地区があり、湿地再生事業としてコウノトリの採餌環境となるような湿地の形成、荒川と支川や水田等との連続性を高め、魚類の生息環境をよくする取り組みを組み合わせ、取り組んでいるところである。

#### ○ 荒川流域ネットワーク

渡良瀬遊水地だけではなく、コウノトリが荒川流域にも、早く飛んでこれる、定着するような自然環境というものを作っていただきたい。作っていただければ、我々市民が代わる代わる行って、環境パトロールを実施したい。

#### ○ 桶川市

桶川市は、歴史的には江戸時代から紅花の生産量が非常に多いという所で、紅花を地域振興の一つとして取り上げている。

エコネットに通ずる取り組みとしては、外来種駆除、オオキンケイギクの駆除やアライグマの駆除などもやっている。

荒川にはサイクリングロードがあるので、サイクリングロードを活用して、よく人が来るような仕掛け、スタンプラリーのようなイベントがあると良い。また、各自治体の方で何かイベントやった時に、お互いの人の行き来ができると、PRにもなる。これからの取り組みの中で、広報やツアーの支援だとか、各関係機関のネットワークにつながる。

#### ○ 事務局

荒川流域に限らず非常に大きな洪水被害が全国的に発生している。昨年では荒川流域でも堤防が壊れるなどの、災害が発生した。一方で、吉見町のイチゴの生産は、洪

水による肥沃な土壌の恩恵という話もいただいた。最近の治水の考え方としては、堤防整備や河道掘削等、河川内の対策だけではなく、流域全体で治水に取り組む「流域治水」を掲げ、河川管理者だけでなく、あらゆる機関が連携し、流域一体での対策を始めたところである。河川管理者としては、大間の湿地整備や自然再生の取り組みも進めているところだが、一方では治水対策として河川改修なども行っているため、今後もみなさまと意見交換させていただきながら様々な取り組みを実施していきたい。

また、国土交通省では「かわまちづくり支援制度」という、地域のネットワークを通じて、地域の活性化等の取り組みを支援する制度があるため、活用をご検討いただきたい。河川管理者の取り組みとして紹介した。

### ○ 浅枝座長

関東地方は昔から、霞堤に代表されるように堤防も途切れ途切れになっており、そういう形が治水の基本で、そのような場所には湿地ができやすい。そういったところが、場合によってはコウノトリの住処になっていたり、当時は、ツルもいた。人間の営みの中でコウノトリやツルもサギ等も、みんなで一緒になって生きていたというのが、実は関東平野の歴史である。

### ○ 高木委員

この地域は川と共に、水と共にあって、令和元年の台風19号の時には、やっぱり自然には逆らえないというのはすごく実感した。いかに自然と向き合って生きて行くかということを含めて、コウノトリをシンボルにして考えていくと私たちのこれからの生活や、子供たち、孫たちの未来につながるんじゃないかなということを感じた。

### ○ 日橋委員

各自自治体のアクションプランが重要である。アクションプランを行動にするのは自治体であったり地域の住民であったりする。実際にやるとなると、細やかなところも含めて、基本プランが必要である。

また、野外に出て学習する機会をもっと増やしていかないといけない。やはり子供たちに現場を見てもらって、自分たちが一体何をしたらいいか、自分たちがどういう行動をすると、どんな結果になるか、自分たちで考える機会が重要である。そういったことを考えて、教育していかないとこれは、我々だけの課題ではなくて、今後もみなさんの子供、孫たち、さらにその後ずっと続く。

生きものと我々の暮らしなどのつながりを皆さんに分かるように伝えていって、小さな生き物でもみんなつながっているということを教えることが重要である。自分の暮らしにとってつながっているということをしっかり教えたい。

### ○ 埼玉県農林部農村整備課

埼玉県で推進している事業の中で多面的機能支援事業がある。この事業の目的の中に、水源の涵養、自然環境の保全というものがあり、アクションプラン案の内容はこ

の目的とも一致する。

多様性があることで、例えば水質に何か異常があった時にドジョウだけでなく、アユとかいろんな魚がいて、危険を察知しやすいというのも人間にとってのメリットというのも勉強になった。

指標種としてトキとコウノトリを設定しているが、生息数を調査するのか。個人的には具体的な数値目標は掲げず、イメージとしてここにはトキがいる、コウノトリが来てくれるというイメージを持ってもらうことを目標にした方が地域の発展にはつながるのかなと思う。

### 3. その他（連絡・調整事項等）

#### ・今後の予定等について

○ 荒川上流河川事務所 鬼頭課長

次回のスケジュールについては決まり次第、追って連絡をさせていただく

。

以 上



**荒川流域エコネット地域づくり推進協議会**  
**第1回 荒川流域エリア・ワーキング 委員指摘・対応表**

項目	No.	発言者	ご指摘・ご意見(概要)	対応方針
荒川流域エリアの現状について	1	吉見町 笹木係長	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 吉見町はイチゴの生産が盛んで(荒川氾濫による肥沃な土壌)、「吉見イチゴ」というブランド化に取り組んでいる。地域に根ざした特産品として取り上げていただくとありがたい。</li> <li>▶ 武蔵野の面影を残す里山「岩室観音」があり、比較的珍しいイワタバコが群生している</li> <li>▶ さくら堤公園は、かつて荒川の氾濫をきっかけに、集落を区切るようにした土手にサクラを植栽しており、サクラや彼岸花が咲く観光名所になっている。</li> </ul>	⇒『2.3 荒川流域エリアの歴史・文化・特産品』に「吉見イチゴ」「岩室観音堂」「イワタバコ」を追記した。(資料2-p 6) ⇒さくら堤公園は、大田堤の話と合わせて「荒ぶる川」の項目のなかに追記した。(資料2-p 4)
指標種について	2	埼玉県子ども動物自然公園 高木副園長	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 本来、このエリアでは、トキの方が定着しやすいのではないかと思います。整備の面など非常に難しいところもあるが、将来的な目標として残しておいたほうがよいのではないかと。</li> <li>▶ コウノトリについては、野田市の放鳥、渡良瀬遊水地での野外繁殖という成功があるので、その輪は広がっていくべきと思われる(このエリアだけでなく、関東全域の重要な地点として考える)。</li> </ul>	⇒エリア共通の指標種をコウノトリ、トキで確定とする。(資料2-p 7)
	3	埼玉県 水辺再生課 齋藤主事	▶ 外来種に関する問い合わせも頻繁にある。指標種とともに「対策ターゲットにすべき外来種(オオキンケイギク、アレチウリなどの動植物リスト)」があると、地域の方々に説明するとき役に立つのかと思う。	⇒新たに項目は立てず、「5.これまでの取り組み」のなかで、アライグマ駆除やオオキンケイギク駆除(資料2-p 10)を紹介させていただいた。 ※対策すべき外来種リストの作成などの具体的な作業は、次年度以降、プラン②の一環として取り組むことを想定したい。
	4	川島町 青木課長	▶ 情報提供として、三ツ又周辺などにシカがすみついている(台風の影響で移動してきた可能性がある)。外来種ではないが、農業被害があるとして、有害鳥獣として駆除している。	
	5	事務局	▶ 生物種が増えるのはよい面もありつつ、農業従事者の方にとっては非常に苦しい状況という面もあり、どちらがよいのかという問題については、こうした場を通じて皆さんと考えながら、対応を進めていきたい。	
将来像・目標イメージについて	6	鴻巣こうのとりを育む会 伊藤代表理事	▶ 案1「荒川流域の空、あるいは埼玉県の空にコウノトリを羽ばたかせよう」が一番の目標だと思う。非常に難しい問題ではあるが、夢があって、色々な産業がえられる。(2~5案はその具体的な案。生態系ピラミッドを正常な形にしていく、環境保全型の農業の推進や観光など一つ一つを考え、羽ばたかせるための産業を推進していければよいと思う。	⇒案1をスローガンとして採用したい。また、案2~5と治水の観点の複合して副題をつけたので、本会議にて確認したい。(資料2-p 9)
	7	埼玉県子ども動物自然公園 高木副園長	▶ 安定した環境でしか生きていけない種、攪乱環境に生きている種もいる。その両面を考えていかないと、何かを守ることで逆に守れなくなる生物種もいるという観点を、計画のどこかに入れられるとよい。	
	8	荒川上流河川事務所 米沢副所長	▶ 昨年、非常に大きな洪水が荒川流域含め全国的に発生し、流域治水というキーワードで、河川管理者だけでなく、あらゆる機関が連携して対策を図ろうという取り組みを進めている。治水の視点もこのなかに入れ込んでいければと思っている。	
	9	浅枝座長	▶ いわゆる生態系サービスとの兼ね合いという観点があつたほうがよい。そこを少しクローズアップさせると、いろんな自治体施策との連携、地域の方に住民の方に説明しやすくなるなど、さまざまなメリットがあると思う。	⇒生物多様性が支える生態系サービス(4項目)と、生態系ネットワークが生物多様性を向上させるものであることについて追記した。(資料2-p 8)
	10	埼玉県環境部みどり自然課 窪田主幹	▶ 仕事をするなかで「生物多様性の保全」というキーワードは重要で、生態系サービスというところに直結するもの。さまざまなものをまもろうとするなかで、バランスが非常に大事ということ、さまざまな生物がいることが大事ということ、なかなか浸透できていないところがあり、そういう観点での取り組みであると非常にありがたいかと思う。ぜひ、それらをキーワードとして入れていただきたいと思う。	
これまでの取り組み	11	吉見町 笹木係長	▶ オオキンケイギク駆除を紹介していただいているが、アライグマのほうが問題になっていると思われ、そちらのほうが適しているのではないかと。	⇒『5.1 生物の生息環境保全に関する取り組み』に「アライグマ駆除(農地での取り組み)」を追加した。(資料2-p 10)
	12	吉見町 笹木係長	▶ 市野川クリーンアップ作戦を紹介していただいているが、荒川クリーンアップも実施しており、どちらがよいかお話ししたい。	⇒本会議にて協議したい。(資料2-p 11)
	13	吉見町 笹木係長	▶ 「観光・イベントやブランドづくりに関する取り組み」について、吉見イチゴにちなんだイベントや、吉見総合運動公園(荒川河川敷)における「水仙・菜の花まつり」についても紹介していただきたい。	⇒『5.2 地域振興・経済活性化に関する取り組み』に「水仙・菜の花まつり」を追加した。(資料2-p 11)
	14	桶川市 天沼課長	▶ 桶川市は江戸時代から紅花の生産量が非常に多いところで、5月にふれあいフェスタというイベントを開催し、その際、緑化の啓発を行っている。6月には紅花まつりも開催しており、比較的イベントが多い。オオキンケイギクやアライグマの駆除など外来種対策も実施している。	⇒『5.1 生物の生息環境保全に関する取り組み』に「アライグマ駆除(農地での取り組み)」を追加した。(資料2-p 10)

項目	No.	発言者	ご指摘・ご意見（概要）	対応方針
アクションプログラム（項目・内容）について	15	荒川流域ネットワーク 川島理事	➤ 鴻巣市小谷の田んぼで、コウノトリの餌になるドジョウの養殖をすすめている。目標としては、餌資源の確保（カエルや魚もたくさんいるようになること）から、鴻巣市の観光事業（例えばドジョウの唐揚げ、道の駅のおみやげなど）にもつなげたい。そうしたことも、このアクションプランの中に入れてよいか。	⇒アクションプラン⑤の実施内容例に「特産品：コウノトリ餌資源にもなるドジョウ」を追加した。（資料2-p13）
	16	鴻巣市 大島課長	➤ プラン③について、鴻巣市では荒川近郊にコウノトリ飼育施設（野生復帰の拠点となる施設）をつくっており、3月には完成する予定。本市の環境学習だけではなく、流域の環境学習にもつながる拠点となればと考えている。	⇒アクションプラン③の記述「環境学習・観察会の推進支援」でよいか内容確認したい。（資料2-p12）
	17	東京動物園協会 教育普及センター 日橋所長	➤ 自然学習の機会をもっと増やしていくべき。子どもたちに現場を見てもらったり、自分たちが一体何をしたらいいか、自分たちがどういう行動をすると、どんな結果になるのか、自分たちで考えられるよう、今後、ずっと続くものに対しては教育が重要である。	
	18	吉見町 笹木係長	➤ 町の東部でスクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）が異常に発生し、この駆除作戦を町と地元で協力して検討している。	⇒アクションプラン②の一環として、次年度以降、連携調整を図っていくことを想定する。（資料2-p12）
	19	吉見町 笹木係長	➤ これまでの活動継続というところで、農地と里山の保全があるが、農地を守るには新たな就農者がいらっしやらないというのが難しいという所があるので、そもそも「農地を守る活動」というのをこのプランの中に入れてもよいかと思う。	⇒プラン項目の追加については、本会議にて相談したい。（資料2-12） ※プラン①を通じて農地環境の保全を推進していけることも想定される。
	20	北本市 浦課長	➤ 北本自然観察公園、埼玉県自然学習センター、高尾さくら公園、野外活動センター、北本水辺プラザ公園など自然を生かした設備が数多くあるのが北本市の特徴であり、近年、都心からほど近くに豊かな自然があること、また歴史的価値が高く評価されていることを受け、「&green（アンドグリーン）」というテーマでシティプロモーションに着手している。（株式会社モンベルとシティプロモーションの推進協定を結んでいる。） ➤ 緑豊かな里山が癒しの効果があるということに着目し、近年、森林セラピー事業にも着手している。里山や雑木林のもつ癒し効果を期待し、この健康増進機能を市のPRにつなげていければという取り組み。平成31年4月に県内初の森林セラピー基地として認定取得している。 ➤ 里山・雑木林の癒し効果も、実証実験を経て、リラックス効果・リフレッシュ効果が科学的に認められ、北本野外活動センターを拠点に、自然観察公園内に2つのセラピーロードを設置するなどしている。 ➤ こうした自然環境を地域の資源として、自然を生かしたまちづくりを進めていきたいと思っており、アクションプランに載せていただければよいかと思い、参考として紹介させていただいた。	⇒『2.2 荒川流域エリアの自然環境』に「荒川の自然環境が学べる施設等」の項目を追加し、「埼玉県自然学習センター」「北本自然観察公園」等を追加した。（資料2-p5） ⇒アクションプラン⑤の実施内容例に「森林セラピー」を追加した。（資料2-p13）
	21	鴻巣市 大島課長	➤ プラン⑤について、コウノトリ野生復帰の拠点が、荒川河川敷サイクリングロードを利用される方の休憩場所としても活用いただけるのではと考えている。また、コスモスフェスティバル（荒川河川敷）の来訪者に立ち寄っていただく拠点にもなればと思っている。	⇒アクションプラン⑤の記述「サイクリング等の関連情報の収集・整理・発信」でよいか内容確認したい。（資料2-p13）
	22	吉見町 笹木係長	➤ プラン⑤⑥に関係することとして、今後、荒川サイクリングロード（吉見総合運動公園は利用者が立ち寄る）は利用者も多く、これを活用したイベントが増えてくるかと思う。さくら堤公園は来訪者も多く、北本市さんと「桜でつながるスタンプラリー」を実施している。また、ゆるキャラ同士のイベント交流なども行われている。	
	23	桶川市 天沼課長	➤ 荒川の太郎右衛門橋のすぐそばに桶川飛行学校平和記念館をオープンした。荒川のサイクリングロードがあり、利用者の方もよく来訪される。 ➤ 荒川エコロジカルネットワークの事業の取り組みとして考えると、ひとつの市だけで実施するのではなく、スタンプラリーのような、各自治体の行事の際にお互いの人の行き来があるようなもののほうがPRにもなるかと思われる。	
	その他	24	事務局	➤ 荒川・大間地区（鴻巣市）において、湿地再生事業を進めている。コウノトリの採餌環境となるような湿地づくり、周辺水路との落差解消・連続性再生に取り組んでいる。具体的なイメージなどがみえてきたら、こうした場で紹介させていただきたい。
25		浅枝座長 ⇒事務局	➤ このエリアにおいて、どこにコウノトリが飛来できそうとか、どこが湿地か・住宅地価というような俯瞰図はあるか？ ⇒今、荒川の環境調査の中で、コウノトリの再帰環境として、この流域がどういった状況なのか調査を行っているところ。ポテンシャルマップとして、そういったものがまとまってくれば、どういったところにだったら飛来の可能性が高いというのは少し見えてくると思うので、またまとまったらご紹介したい。	⇒荒川の調査結果については、今後、この取り組みのなかでも紹介していく予定。
26		東京動物園協会 教育普及センター 日橋所長	➤ 各自治体のアクション、個人アクションが積み重なって、環境が守られる・魅力的な地域づくりができるので、皆さんのアクションプランをもっと知ることが重要である。	⇒ご指摘の点踏まえ、次年度以降も地域連携による本事業の推進を図っていく。
27		埼玉県農村整備課 宮島技師	➤ アクションプランの自治体施策との連携というものには賛成である。埼玉県では多面的機能支援事業を推進しており、この目的の中に、水源の改良、自然環境の保全というものがあり、これを推進するきっかけにもなり、地域の方にも説明しやすいかと思う。	